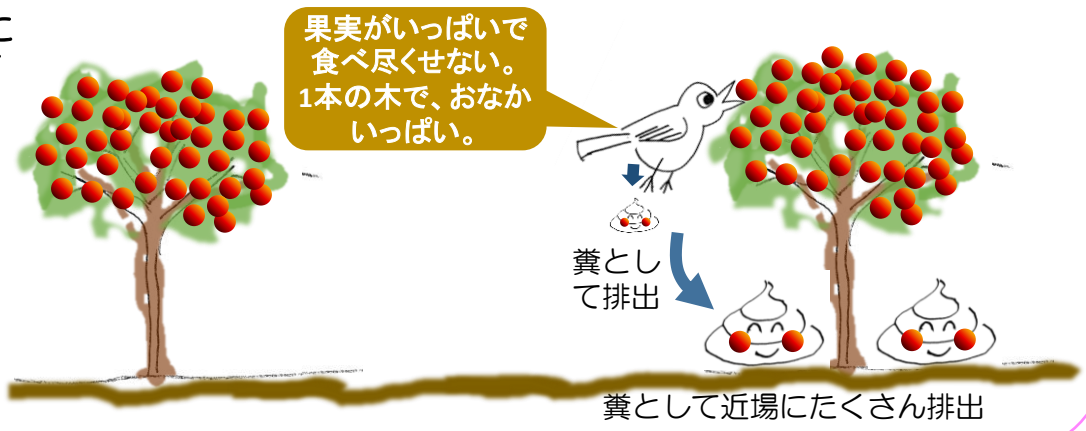
果実が少ない方が、将来、子孫繁栄

伊豆川哲也
2024.9月

自分で歩けない植物は、果実を餌とすることで鳥や獣にタネを運んでもらってます（動物種子散布）。1本の木でも果実がたくさん実る年（豊作）と、果実が少ない年（凶作）があるけど、どっちが得？

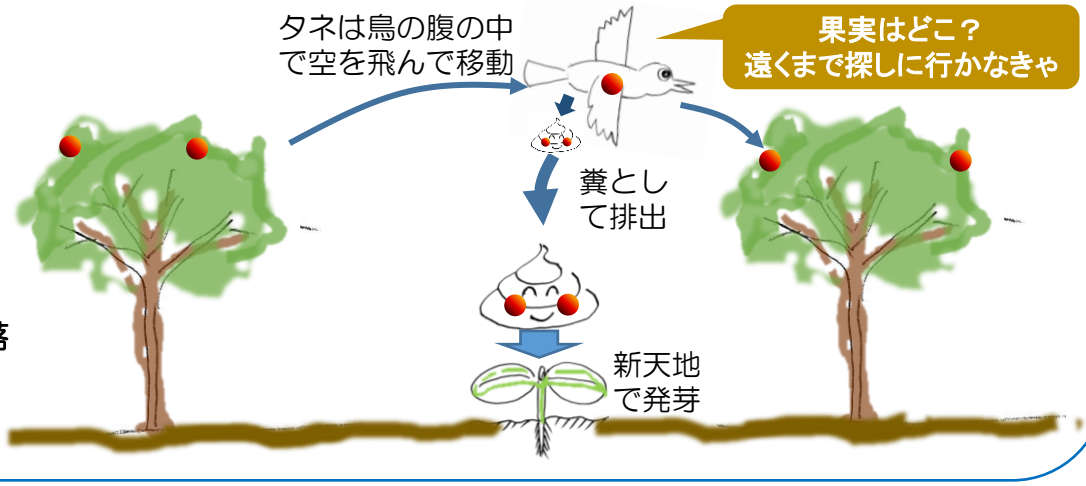
果実がたくさんある（豊作）年

1本の木で、果実が十分にあるので、果実を探して飛び回る必要が無い
↓
タネを遠くまで運んでもらえない
↓
親木の林床では、暗くて、生育できない種が多い。
↓
発芽しても枯れやすい



果実が少ない（凶作）年

果実が少ないので、鳥は餌不足
↓
果実を探して飛び回る
↓
途中でフンをするのでタネを遠くまで運搬
↓
タネとしては生息適地に落ちる可能性が高くなる
↓
新天地で発芽

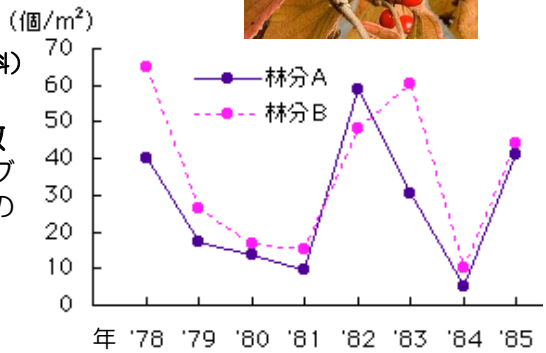


果実が少ない（凶作）年の方が、タネが遠くまで運ばれるので、新天地に子孫を残すことができる。植物の繁殖戦略として凶作は効果的。意外ですね～。

今秋は豊作かな？凶作かな？

ガマズミの液果
箱根でよく見かける落葉広葉樹

コナラ（ブナ科）の健全な落下種子数
ドングリ類（ブナ科）は豊凶の年差が激しい
1987橋詰



考えてみよう

●もし、毎年、凶作だと、どうなる？
→「この地域は餌が少ない」と動物が学習して、豊作な地域へ動物が移動してしまう（説）
●もし、毎年、豊作だと、どうなる？

出典：直江将司、酒井章子、正木隆2018：Effects of temporal variation in community-level fruit abundance on seed dispersal by birds across woody species（群集レベルの果実量の時間変動が鳥による種子散布に与える影響）京大、森林総研。京大記者発表2018